けいせい會稽山　五

ヘ 8
4346
5

けいせい會稽山巻之五

造り物三間の間二重ぶたい海方(?)庭のかゝりよし城
二重ぶたいの真中に八ッ代一角立てかる平ぶたい濱坂住
左門庄屋兆左衛門は縄うけ引すへてかるけふへまでも(?)細
此内婚礼のこと
ト一らく住左衛門は作左衛門がてい(?)とうけと取まて
する住左衛門兆左衛門がまわしとさきにごさつて
体
一角さて(?)の通り庄屋兆左衛門はやふくや中んまくしめ(?)び
一らく
コリヤ　ト申すくたらえ紙ぶり
とろし
二ッ三ッ顔を左中がつうな
いつもおそ来れよの伝まちぐいあわぬ七
遅参の科とあわせ又此ありさまいかが
也

へ 8 4346 5 特
[library seal: …文庫]

かりがねふかまりる　一角「伴左衛門様
引つゝんで　一角「コリヤ色そち伴左　伴「ハ
ト伴左衛門へ向ひ伴左衛門は携がりへ
奥より伴介で
伴助　伴「扨は上使とは加茂家へ入こんだは何ぞよんどころなく金まうけかそれとも
めつうとわりふてれゝとさんぜん下部遂平めがめどうりおつて時よい
うむ三のりくぶつなまてうとようぽどむよをだきまして
ひいて千する金が極する所れば業まてられう合音をとらわ盗みる
夫れはお口まよしてとは附け込んでとさ　伴「そら学文ならぬが服さし
奸臣上使と見わひれつ主の御言葉却て破滅わりや
金るぶけりと言うけるん一角どの金んるぶく金がごんする　一角「今郎用が
伴「イヤ路金は回しきり金子も十両ほどよされたるべし

さんげんとハこらねアちの　一角「ソレデモ金ハいかほど所よ　伴「ハテ千両あろうと
二千両あろうと　一角「ナアるんとふ　伴「七日以前が有るで言うとが岸田民部
へ申る返せるところはふ毛屋人が数てけて奴の遂平が見つけて
おひとふとする中る中つとめがてあるところよ門をあまで取り金
加藤へのたんこくまで出もちぶれたかんじんの名高れ不行
まへへてコレこらでんぐん　ト合点　まし田民部夜へ入ゝ代一角　○ト
あらふかのが手への文がの紫色名を遂平がおってかけよく
あらしき此舟の上ををゝさまつとおてき紫色の名あかたし
サア是でがわしい金でおんせ千両あろうと二千両あろうと金ならう
じやぶつとさまずつて突ってかしみ　ト一角手を返り見のるんかうやら
あらまをいらハテモウいずまかのともうし受ってでいる部へかりて

[illegible]がる雲山く ドリヤ乗れうりとせ[illegible]らん ト立つて する 一ろく「申[illegible] 侍「へし[illegible]

よびめどして付(つけ)よるとハ古(ふる)ん中川じや二千両ハ内がちらまりけても唐(から)子

ぬぐで見尺てや 一ろく「のぞきみとおり二千両でりふてくまう 侍「コリヤ六[illegible] 一ろく

見世(みせ)のまあてみあるうちへ[illegible]せ 侍「イヤさらしくうが玄関(げんかん)[illegible]

[illegible]や代物(しろ)ハそうさうされね。 一ろく「金子調達(てうだつ)の内は一下宿(しゆく)をたのむ

おしさの袋ヘのへ行る 侍「コリヤなんでごんた 一ろく「とくよりまこ入 トうけ 一ろく「申まするよ

直判(じきはん)としておこ[illegible] とる

直判(じきはん)侍「おめしろハ金はうりまたがうり申しるとる

[illegible]し会ほてもかれバ 侍「小うげてしのんで 一ろく「万ろ見ハ後(のち)あれど 侍「一ろくの

一ろく「ごやくく 侍「がつてんじや ト亭主をよんで入 一ろく「此上ハ覚左衛門で

ト扨(?)へ行かとするトおつくが 覚「八ツ代一角まじまそれよ 一ろく「ヲ覚左衛門

覚左衛門だりとて

りうちけのすじが行るり何でようよがくりでも何[illegible] 覚「りう申し

覚左衛門が敗白(はいぼく)のりうちけ今付るてわしは[illegible]お中をト一ろく覚左衛門二やとぶらうあ

まん中とうまる 七「覚左衛門ろ主君(しゆくん)ハ上使の内おゐとるすと申おいて

かたる七のでて

よお役宮(やくぐう)へ入て一旦相(えん)すんでいゐるが返答(へんたふ)の内工夫(くふう)が付ましたる

覚「おるほどりうちけのすじ工夫してゐる 七「何ゆうちけのすじを 覚「いゝ

小も 七「いうが付ましと 覚「逆平(さかへい)ゆうしまと 逆「ハテト逆平ほじがうか[illegible]る ト

七ハ一ろくそば[illegible]逆(しん)モヨウとくりあけ

コリヤ神(しん)ろう者(じや)やめたやのがきね黒(おくり)わく三本つ流(しん)

がたは女人びつ 一ろく「下部(しもべ)やうねものがつされるゝ 逆「ずいぶんされるさうせん

ろうそして

旅(たび)商(さ)人(?)ハ毒薬(どくやく)まで云(ごん)言(ぜつ)とよりおしかおぢん金も仲(なか)やをとめの

えばとかり云言さい申にちつる逆平どうてもちろうる。めんそ

をめ此上り小口黒(?)け三本と進をゆうけ水術(すいじゆつ)の一意(くらん)へとうなかび浮(?)

いうしく己でおうふがるま ト七ハそそしね 十「覚左衛門どの[illegible]はまるぶ

うぶまて

軍法はうしねとて人へ申てもびんを万あらしかまへてぞくを御勝負。
あしやうけの筋をも申しますへて後らまへ一二本を進め比上佐の
比おのよろしく吹挙いゝでムふ　兄「それは万々承ぞんずるが
若気歳いよし愚案一二本を進でムる　七「ハテ何くるすへくおつくいて
嫌　兄「摘刀別所家の軍師愚案一二本を進は武芸はかしも分劔ゆ
ろもんをゆるよ人の骨柄おつてやさしき武士とおぼしく　七「ヤアト
ぶつくり　兄「志ろうんもそ方が人柄とゆうに骨なく申しくして言わめ
ころりし　七「おんとトんうしぬ　兄「又るさ国いざ志らじ唐国までいつふ
そうよじやうぬトセれつぶつころりと知て　七「ナニ何とうふのじや　兄「愚案一二本を進
どうとうけ秘書をうばひとり其一ト巻をめりてまんやすと二三本を進
とぬて唐国へ逃とうぞく　七「ヤア何じろうようる縮門おちうろう
の本体かうしおもふ　七「サアそれは　兄「但し摘門よりうけたか　七「サア夫
は　兄「サアどふじや　トセれくセ「そふややつうを　ト兄七の方へ切てかゝるをかしこ
りつて七れうとさふうぞやへかけゐ兄七をうつかしとゆき七れうぐくるゐ串が
一ト巻とうる此ときぎ一ト巻く力ゆるうけ兄七の方と切ふとする兄人七の方よくとる
兄「一角コリヤ何としめさる　一角「イヤサ是は〇ムウ勝ひやけわまつ二つ
いるさふとぞんじて　兄「ハテ人もたのまぬ成敗とは無のほど志らしあ代
一角汝が大望ある子細ありて御ぶ落年に白状せよ　一角「なかれ夫七の
其角何も白状するわざへいるんまい　兄「みつりとしとんとてみのつこよ
ある門をとこさんとて縁の供合となりたく志葵きてふりんと
して返門き斗界のつとろてよかゝるとは汝がてそれがしに無実の
科をうしらへ滅亡さして加家を押領せんとはおろかく弟るれ
類に洞術の秘書を仕こそしもそ方が立とせゝこは是武逆卒が

八ツ代一角
浅尾與六
沈上七九郎
中村歌右衛門

わたりし謀書の事ぶまぎれず半服して合せ乃とあり東條家
のごしきんかしとへ送りし此上ハおいて又合せ加藤家と○とうあつて
名当の八方付もどおふする示其方合符の者へ送る謀書その上
を白ぎれて立てし返詩ハ唐士陣後将軍伯英へ光の内通往
昔王韓對怨恨時今扶桑發英名○是ぞしし三韓王の恨を
合体なせし時ハ今とよふハ明智が先祖去波伯着るが氏を頼に
大明と一ツになり日本を名を上んとの割符の詩文光秀が弟
左馬之助光春もちやのがれぬ落着て白状せよ一ろく「イヤ光秀ね
詩も謀書も身より調伏の趣意も我が手に出でし此一角をさぬ
又光秀ハ何のなにてる承る「何としわらぐへハ
のりひきうしね證拠がたしやかく一目断なきまより「ハアし
トおく分庄屋が申上ルにより大小を腰へさしそて此の所に戸田源四郎ハ十内太臣
しせんつづいてつくる一ろくにさてこうしまて
一ろく「ヤアそち「ヤア一角三年以前西国へ使せしことなら只今しね
西仲かしこりも光秀どのにさしで此る割符を見せと勢ひ
させ明智の庄屋地なりと名のりちらが上にさつしいれまぬ光
左馬之助の計略さいせん汝が連判いて受付まいもありて此にいるちらが
天命下逆「御身れが打ちへ申し謀書といひ源十郎「調伏の趣意光「めろさしへ
内通の此詩文光「是が上に両人ふる同筆どうりつ光「何とれ光秀いかがふう
明智光秀「サアリ逆光「サア光「サア光「サアりし白状一ろくいうなせ
つかうけるを色まつてヱイし光「あのどうもそうや卜中ぬ此の雑兵がんの跡だて
ヨシト刀をぬきよる赤松勇助大四人鉄砲に
打ちし見四人「申しあぞトつ先をむける一ろく一ろく「ヤア悪魔や仕とまつて仕
ので
ここしらがあまうわしるでさされたりしさきれてそ　ち　御意

やまアいろゆもまちまちが推参せし通り大明の臣下伯英と合体なし
此日本をくつがへし兄弟共が我大望をとげんと
加藤家をおもて兄弟合して今月今日度をうつして
し此上へ兄左衛門も御一家中をやくがたつてぶちこみと来る
のつて肥前も名古屋へおし寄せ久しく…
ちぢめる兄左衛門うねりつつ ト兄左衛門へうちかゝらんとする
「かくごしろ」 ト太刀を切つけんとする
「さア兄真汝と合体せし大明の
伯英は主人正清公がうけられその外毛虎人を引て切首をきり耳
うちとりて肥前へ凱陣なして勝軍ともに打軍
「汝が力とたのむ伯英はおそれて…のがれぬ
明智左衛門
「逸常は切腹するか」
「ただし…
「サア何とし ト…つかみかゝる
やかましい…までかゝる武運つきしや
「反逆人の左衛門めで首を ト…
ト…口を縄下三寸兄左衛門の切腹なれば兄光秀
兄を裁せし天罰にて竹鋸にて命をめしとらるる
家へ仇する逆賊めんはやたらに苦痛をさせて自業
「スリヤせうし
「おすて…つかまりて天へ
「ハッ
「是…
七
「左衛門…
汝は何…で
七
「…主人…
…ふしんは…拙者とは…家来…
…

らりしは憂艱難何とぞ重光は秋
よりぬ一ろしよのとゐるゑ
無念ニ　ニおりしておりして
原無念とうけつき追付拙者が大願
只一卜打修羅のりうしるもし送
られそ本をを進ずる時節を待ぞよ　七「久吉を討る計ごと中
んのこそに成佛あしまわふ　一ウ「手一言が此舟のちしを行しんよや
うましやるアトもりげりそさとてはさら付「只今揺子とるれんで
おかしまとかちさらそ
覚ん支ら此なれ揺子把お名日や〳〵まゐるとりりそを世けよおと
ちろ逆申に待ふ世此穏がしまうて只一トうら七「でらさるさるゐ
義ハ拙者がうけるちさ当底ハ門かかへ引つまさん〳〵とつて当左ら
が待ささとさき〳〵亡きあ舟ハ泣〳〵とつて主人の歎覚左ら相紋
二ッ立して半夜ハささく〳〵付「んかま〳〵と七「其申し　付「ハツト侍左ら送り〳〵
时内しつうる重二言やさうらて　一ウ「アゝ入れバ南無の如滅く仏ら
かる一ろくてるしあり　七「ハツ隣る内に覚
けうしとおしまれかのハ海夫人おんさ
左そつて之れうしてハ形ざんやんフレトつりしトお前の一ウ「コリヤトお念うけ刀を引覚
七おうしま　七「主従ハ三世一ウ「めぐりで吉左志相待ぞよトカをめきさ〳〵
ろうる七「うむかざ仏トゥくきつうしとうもさうけ
七のるらうしありをさそ　そふじやトでか
引さげるつくをしまさ入ト

一西浅ぎやし切おされ
チヨンしまて返し
もしげり方宅内ハきしん大蔵もしてゐる
おしつらの方侍左ら門でる

三吉「伴左衛門どの 伴「いつまでも 三吉「ヱヽ只今ハ 伴「いよ／＼今宵ひ廿人
うまがやへ参るハ浩宅 宅「道中にて待うけ此宅内が右主人のかたき
三吉「これはきあふても先生の仇 伴「志手まふてとるハ大てきされ 三吉「桜の
ぎがくりげの場所 伴「コレト こゝろして 志つ[illegible]山相寄うてハ
ふかくのりひとつれの人 伴左衛門が家来一人味方されからんにゝらん
あつて 宅「それ上分別道をおよびシテ[illegible]の者ハ 伴「コレト[illegible]
宅「スリヤアノ台 伴「コリヤ合作の桜子[illegible]れていて返つて[illegible]
ト伴左衛門ハ〆道宅内ハ 伴 宅「ト[illegible] 三吉「[illegible]んでいる 伴「何事もめんてきを
太蔵[illegible]
くし道伴左衛門[illegible]殺すにさアくつくんろ 三吉「くゐまいと
此内道平[illegible]へ 伴「あのもちハ伴左衛門がよもさる[illegible]へ上り[illegible]
ひでらして[illegible]
三平[illegible]しされ 三吉「[illegible]んでいる 伴「まじとし付せぬ揺れ[illegible]
めさる[illegible] 三吉「ハツ 道「揺子ハ[illegible]れた ト[illegible]てる 三吉「ヤア ト[illegible]道「[illegible]
てくし[illegible]主人のまへに引さるかとひろげ 伴「それ[illegible]
百年目いふまでもワリヤ[illegible]じや ト[illegible]しさわりにまぎる ト
道平[illegible]それに[illegible]
トぐ[illegible]追かけ[illegible]ア 左へ入ト チヨン 返し
右の[illegible]かし[illegible]方すじりひとつ[illegible]桜の林向ふ
見渡ふして[illegible]の大きな桜の[illegible]一めんの上ぞれ桜つり殺之
見へて平ふ[illegible]桜の本人[illegible]て[illegible]
ずつぶん桜むつんでされ[illegible]へし[illegible]納る 方[illegible]
めなし[illegible]
ト[illegible]
[illegible]
[illegible]伴左衛門宅内八[illegible]

おつかひまでのほどかくしでいまでおかしひまでせまとあつかつの内
ちとかりまでしつまは嘉十郎までたゞ人様の林こうされ給
のる覚左衛門紋袴(しやうぞく)すりまで実政の宮でうちん持て立こんドの先
嘉り大ぜいきもきはりんの花でうちん持てめらせ付出るこの
供の内で岩平ふ内ままたぞすりとききて付出る此内出かしう合うと
かゞみうしろへするよう三歩まで来て此林の大小めしんでそでくし
さらしへまゐつてかゝるけいのるにしおもろくト岩平も下々こし〳〵やりて
そこでうちんをもつておくれ此内伴左衛門ふおしめつてきかれ切
まるとはかまゐりまゐしてらうりへかけてむけさうとうけうちや
七九らふすきれて来もかへしてまた入トド伴左衛門宅内ふくしん
大花は岩平けいふまゐしとおつかけ追かけりへ大入をうてくゝりみ
えへ覚左衛門るけかしらを立るとしまろまゐる此内七九らも跡か
でゝきて覚左衛門をやがけ大ゝさせまゐる覚左衛門の二人のつゞひを
おやされしてやまでるかくハおつるけをつくれ覚左衛門がくるら中よう
御家の一寺(いちじ)とりきかれるトいんま追かりへかけて(ひ)しとまるしの
(ひ)覚左ゝめ大人よろけくうちまうの丸二く覚左衛門ハ気のつけてこそお
よろけしあてゝゝらけ切らせよがめを追のりとゆでひかをおゝわ
覚左衛門が念中をさげしゝ太の一重とあるさ出入そくしをたうで
まうしさびけて追がりまでて人おどさるゆへ七九らふ追あつて
白ふへたらしまきんのへトもしぐりが宅内は左衛門伴助めのく大きうハ
ふりでなびひて色を
すりしこて　伴
「ヤア伴左衛門よの　伴
「辻風伴助宅
「さまでと此主人一角さまで　伴
「廿
きる跡(さゝ)しかりさきいてひつ〳〵んでるけとて　伴
「覚左衛門
と主まふそてしるよ隠大ぜい(むごん)中合せ　三人
「ハテよいびがな　伴
「いふも内つて
だれこよあげどきるまでかしみせよかりさ　伴
「でろし中りかりしさ
伴
「附て覚左衛門がさるどれ指子今宵(こよひ)うぞやか立らくる変(へんげ)ははれ
此ぞへりけ付るハ法度(はつと)をもとおするよ隠とら(ゑん)ハトト大ろうとそうとて
わくりとさがりして

中村歌右門
市川鯉十良

おもしろきながしまと 侍「コリヤ宅内爰ハアノ松の枝よりのび茂りたるを
とりよせてつれて おもしろくとて玉子すまし入置と 宅「ヲヽげいさんじや
おもしろいトナリの 侍「舟どのし侍助ハ此さく株よりのし宅内が仕てんじまし
おもしてらし内すられ 侍「めでたし切らせて一角どの〳〵せよ 侍「上田新左衛門侍と
てまん 宅「コリヤなんじまどんといふれハつがぬ内 侍「なるほどじやが
ろるま 宅「ぐつてんじやト侍六ら侍も衆さんしの此本からけへくしまる宅内たるよが
しまてまんせらう玉じなりとろうしたる所へ来ると
ちりげしりて人がくすゝ宅内んの松の本此のとくしまるト岩平ら
きうてうらんをのらぞしつらで見左をつがしがうつすづきてうらんそ
みて 岩「ヤアおぶん此はうさ見ハトトクひそさろし エヽコリヤモウえし
とれらり今一トあしまてばかしとしと八らうせ本まへのの
エてさんねんやるアノ若てうらんをのらせてしあやのでる 岩「ヤア蔓
ぶんる申しく 蔓「岩平なんどや表よりのへもがけ太ひとさまて

さうじどゝ無め指をの 岩「われ新見左衛門さま々ハ不忠の兩さまいこ 蔓「ヤア
おや新人かト見左衛門がしげひさを やらしコリヤ新人エヽ是何ものゝ仕てござしく
ゆり拐くからうしづかく申しと申さいごハさせ本かまへのヽエヽエヽし
ぞん紳んるハやさいしげひとよりつし 岩「エヽ是ぶんる逆らうさしさこ
無念とよのもまへおの猶ずし 岩平岩ひ入おて あしどうつまで山り本もさいトうらぞくろく
つくこゝしあけさゝ岩平と 蔓「岩平そ方ハ新人のあともし 蔓もほらだん
ぶくへつまいて ざんねんおそりけさ無念とだろりまてたとがすまうる此をぬ指をのへのく
いへド〳〵ふじやトせりさる岩平をひ 岩「されださ今宵おぶんる
見左衛門さま々よいひぜんなんどやへろ無念おとしとりけく流て
めされおるらおやも流しも侍ら此所すぐく未る所何者とも
みなうむりまてりほとらく 世 曲者ども一时よゆくさつま侍せ

さうらんさうおしき無念目がけてこゝろ入しせ者ござんなれと
こゝろにひきみさんと追かけ来りき人ありもしつてこゝろ
曲者ハとりおさへしぜひよおくさんでそへしつかまれバ無念そも
はわりさわかりけ仕るも面目なき恙臣取ふがいなきものにおしい
も下部めがんれ内に狼藉なし下され未ふ　トそゝろさする　菱「スリヤ
酒酔ルきつれ手も上る人ものとつくりよりはなしとろいふ　トこらへて　若「ヘイ
菱「手前もさきほどさあがし　若「ヘイ口おしう山のありろしまい　トなく　菱ニ
ろーぐひそこて　菱「今　トうまくひろかしあんの庭にいたる　ト　侍「上田菱次殿
んでさあそて　[illegible]
はけんしれ無念　菱「ハツ　ト[illegible]
とでくろさんじ田わ引とわらその外さんじ田大せいけしおやさのんやき
若てうらんわらお後よつきてひをなりて一寸とゆる菱次ちとてひら
くり　菱「ヤア此主人加茂石　正「上田菱次の横死よの義態揚の[illegible]

さうし入　菱「ハツ　ト[illegible]よしづくまぶさ上意へ[illegible]
松の木[illegible]も内てりがうありさしのびあるそこへて
目と付ころしおろさんじ田わりしと[illegible]　ト正「[illegible]テ手に死厳ハ　菱「ハツ[illegible]
あさよ[illegible]とくなところしありし
ちれ　正「トレ　ト立よりしく[illegible]
刀疵ハ数ケ所[illegible]れとも[illegible]熟[illegible]よの内加茂家とおゐて勲功の者
やりしし付せしへざんわん　菱次ちれさぞ無念[illegible]
[illegible]わかける一生と天付ちの上　菱「雨[illegible]下さりおり
[illegible]へ[illegible]して又[illegible]
へかだんじがけるさ[illegible]比[illegible]ゐ義て[illegible]　正「[illegible]
此度天国の合戦[illegible]切[illegible]陣せしか[illegible]
逆賊と亡さんお紺人なしれやすざれ[illegible]
ゆくわしが一角が假性[illegible]恥ゆ[illegible]旗よ[illegible]
鐡炎[illegible]待しのし[illegible]大切かく[illegible]

縁もあらふ一角に因(どうしん)此中の仕業(しくさ)とあるべき不倶戴天(ぐぶさい)の仇ぐ
菱沢さんそこらでござりやす 正「聞えまい 喘精と春経 ト舞台の道 若れ
あなたの渡賀(りんさん)を下さりませ 正「さりとては つけしがひとさうす ト此内菱沢さん若手
役をつとめるひ 菱「此上ハ何とぞ渡かれぬ事情ぞめらもして欲
まとうく
て身を 正「ソリヤ叶ふまね 菱「アイしてやらりませぬ あア 正「大切
めかりまするひきぞ此渡判の立陣の内紛失せしめ(えんぷ) 菱「そで
スリヤ渡判ふんじつとる 若「あまはどござる彼に此渡をんぞ
判何のものも是非ともひとりつまさまがりをおとしても
志もまね 菱「スリヤ渡判紛失せしとまホイ 正「渡判ぶつかりハ千方
親子大切の一下をあきまざる内ハ欲付の様がひぞんじもまうすが
叶ふまね 菱「スリヤ渡判の立合しもざる内ハ欲付のあ様がひも

ホイホイ 若「渡りつかめぞ若具取合渡はづつり宝の手んじ
途義の縁此一角ハ抜き付てわまてるさすれば渡判の立合も書きば
親兵部ハ渡さるぞ欲とあつらふやつてもお人ハ何とよう雲とふし
欲付まハでうれど見りて弓術(ゆみや)が外のり見をるされまげ渡主人へ
ありりへバ下占やまで委細(よん)し ヱしまが少しわ舞の上ざらふ
する菱沢さん 菱「さアつじや ト手を切つて 正「井まて菱沢さん何ゆへう出客
此菱「渡判の立合れしまくちが渡主人へ中のけもうらでまゆ
欲をうるのバ親人へ不孝さうりみ孝子みし菱沢さん以へきうそ
ト又さし切まハ 正「イヤまて切抜ともバ渡判いのとより欲ハ安然(あんど)
とまる 菱「ハツ 正「血気の早業つらのれエり コリヤ
方がりにまかさうぞ
大望なる事へまかさらふぜんあねらうが 渡判とせんぞ過欲を討はい

加藤正清
市川海老蔵

誅のため帯をふところへそれぬ　ト松の木に獅子ん中に忠本を捨
てあるい　ト松の木とそれ〳〵兼が眼力で悪人などハ及ばねどくぎ口惜き
多罪ゆく
ト宅内をぐっとふんむ宅内立そぞく　菱「极して　トつかくとする
ふりほどきて落し松の木がおちる　しまいかる
たくさおしえ　トすゞにまってゐる立廻りにつて宅内をポンと立すりく
そのまへおらげが伴助つかんで菱次が〳〵とらみつきすまして
蓮「うむ三百判取ん　トとりこゐる菱次ハつきすまして
おとれ　伴　遊ぶんとひろひかけてうしろへ
菱「おのれひげけらてきひとこごめ百判　伴「そのまゝと　トうしろへ立廻り若草　百判　ひそくすもたへうけ
ひざれ菱次郎伴すけと立まゝの内太の太刀がしまてとん上へ若草手どんてと
うつ若草判をうちろずしてとまふさいへゆくをあれるくどまま
伴助若草がおかる百判をよいと少げつとするを菱次ら引のばれ　菱「コリヤ。
立まゝ〳〵て伴助をおて太のなんとよりいつくらわて　正「百判さしい。
まそられひさとの百判○イザ百うけとりかうしきた一
うけとつさ　菱「百判百まて入らく　正「歎付きくうけさ　菱「ヤ有が
ちる〳〵いけて　トたゞすくみて　正「まそ　菱「百用でやり申すら　正「る
見て〳〵する

がらくまふ。菱「何をがくりとい　正「そのまゝ　トさいぜんひろひし一つ
みて　菱「藩郷の一巻岡本二本く進上をさんらう　菱次に〳〵ひろふ
正「覚え有る横紙の物あしおとし　ものい正し歎せよアり　菱「ひとつ
ト此ときく律太郎櫓のこまりしょりよんでおり一まとくりくゐる律すけ
みつさておきさげり上よお菱次〳〵ろふよ。かまくきくよつさかすらし菱「
の方へるげる菱次らハ律太郎と立まゝの此内律太郎をとふて文ありあろかつ
あ方一時よおきてるとあさまいハ律太郎とどれとのこされ同じとひか
菱次らハ伴すけとんざられちり双方一よくによろしくいて
正「同出さし出立　菱「ハツドまと　正「いけ〳〵　ト律太郎が菱次郎き
つく
刀をふく　ト
よろしく

幕